

(5) ノアの子孫による反逆＝バベルの塔事件

洪水からわずか約 100 年後、人類は地に広がることをせずに、バベル（＝バビロン）という都市を築き、そこに集中して住み、ハム族のニムロデを王として、神に反逆した。バベルの塔事件である。

神は、それまで一つの言語だったのを多言語にして、人々を強制的に分散させた。

ノアは洪水から 350 年間生存していたので、この事件のときには生きていた。彼はこの事件をどのように見ていたのであろうか。その記録は聖書には、ない。

ノアの死から 2 年後、入れ替わるかのようにして、セム族からアブラムが生まれた。神は、このひとりの人を選んで、神の民を育てることとされた。

(6) 神はアブラムを呼び出した（アブラムとその子、その孫には、約束の時代）

① アブラムはメソポタミア地方のウルという町に父テラと共に住んでいたが、神の声を聞いて、ウルを立ち、約束の地へと向かった（使徒 7：2～3）。しかし、途中ハランの町に来て留まった（創世記 11：31）。ハランは父テラの出身地であった。テラが死んで、アブラム 75 歳は再び神の声を聞き、再出発した。そして、ヨルダン川の西側、カナン（現在のイスラエル）に入った。

② 彼はその地にとどまり、85 歳の頃に、神と契約を結んだ（創世記 15 章・16 章）。そして、99 歳のときに、神との契約のしるしとして割礼を受けるとともに、神によって名をアブラハム（多くの国民の父）に改名させられた。この契約を、アブラハム契約と呼ぶ。

③ アブラハム契約には 3 つの約束があった。

- 土地の約束・・・【アブラハムと子孫にカナンの地を所有させる】
- 子孫の約束・・・【アブラハムの子孫を星のように増やす】
- 祝福の約束・・・【アブラハムと彼の子孫によって諸国民に神の祝福を与える】

④ アブラハム契約は、その子イサク、孫のヤコブへと継承された。ヤコブには、神は「イスラエル」という名を与えた（創世記 32：28）。ヤコブの 12 人の息子たちから、十二の部族が形成され、エジプトに滞在した 430 年間で、「徒歩の壮年男子約 60 万人」（出エジプト記 12：37）を数える民族にまで成長した。その民族名「イスラエル」は、神がヤコブに与えた名「イスラエル」に由来する。

- ⑤ 以上のように、神がアブラム一人を呼び出し、イスラエル民族にまで育てた時代を、「約束の時代」と呼ぶ。

(7) アブラハムたちに対する神の要求

- ① 約束の時代は、アブラハム契約に基づくものである。アブラハム契約においては、三つの約束が与えられた。土地の約束、子孫の約束、そして祝福の約束である。これらの約束は、人の側にはそれを受け取るために何かしなければならない義務のようのもは一切ない、無条件の約束である。
- ② しかし、神は人に何も求めなかったのかというと、そうではない。アブラハムには、それまで彼が住んでいたところから旅立って、神が与えると約束した土地へ行くことが求められた。イサク、ヤコブ、そして、ヤコブの子たちには、神を信頼しつつ、その場所にとどまることが求められた。
- ③ ところが、ヤコブの子たちは、神を信頼せず、その地の先住民と同化し始めてしまった。神はその地に飢饉を起し、ヤコブとその家族をエジプトに寄留させた。彼らの人口が増加したので、エジプトは彼らの勢力拡大を恐れ、彼らを奴隷として使役した。奴隷状態に陥ったイスラエル民族を、神は、モーセを指導者に立てて、エジプトから救い出し、約束の地に戻そうとされる。アブラハム契約のゆえである（出エジプト記 2 : 23～24「**イスラエルの子らは重い労働にうめき、泣き叫んだ。重い労働による彼らの叫びは神に届いた。神は彼らの嘆きを聞き、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約を思い起こされた**」）

(8) アブラハム契約と、その次に来るモーセの律法との関係

- ① 約束の時代の次に来るのは、モーセの律法の時代である。モーセの律法も、アブラハム契約と同様、全人類に対するものではなく、イスラエル民族（後年、ユダヤ人とも呼ばれるようになる）に与えられた。
- ② このとき、律法は、アブラハム契約の約束に置き換わるわけではなく、アブラハム契約の上に加えて与えられたのである。
- ③ 律法の目的などについては、後で詳しく述べる。アブラハム契約は、約束の時代が終わってモーセの律法の時代になったあとも、ユダヤ人に与えられているということ、このことは旧約聖書を理解する上でとても重要である。

(9) 約束の時代においても、アブラハムたちには守るべき生活ルールがあった。

- ① 創世記 18 : 19 わたしがアブラハムを選び出したのは、彼がその子どもたちと後の家族に命じて、彼らが主の道を守り、正義と公正を行うようになるためであり、それによって、主がアブラハムについて約束したことを彼の上に成就するためだ。
- アブラハムには「主の道」と呼ばれる、何らかの生活ルールが知らされていた。そして、彼はそれに従うべきであると理解していたはずである。
- ② 創世記 26 : 5 これは、アブラハムがわたしの声に聞き従い、わたしの命令と掟とおしえを守って、わたしへの務めを果たしたからである。
- アブラハムは神の声に聞き従った。
 - 神への務めを果たした。
 - 神の命令を守った。
 - 神の掟を守った。
 - 神のおしえを守った。
- ③ 創世記には、アブラハムが神から受けた「命令」「掟」「おしえ」が具体的にどのようなものであったかは、記録されていない。創世記はモーセ以降の時代の人々に与えられたものであり、それらについて知る必要がなかったからである。しかし、それらが実在していたことと、アブラハムたちがそれらを守ったことは、明らかである。